

江戸川区立大杉東小学校（2年目）

【校長】 高橋 真
【生徒数】 409名
【学級数】 14学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 体育科の取組
 - ・「自分なりの目標を立てている」の数値が 90%に達しなかった。現実的な目標を立てて、スモールステップで向上を促していく必要がある。
 - ・活動期間における取組状況が継続されない児童が多い。体力向上への取組が日常化するために、東っこチャレンジの位置づけや体育集会の企画を考え、継続していくようにする。
- 食育の取組
 - ・残菜率の変化は、ほぼ横ばいであることから、すべての学年で食育に関する指導を行い、バランスよく食事をして健康な体を作っていく意識付けをする必要がある。
- 保健の取組
 - ・虫歯の罹患率は減少しているが、江戸川区の平均値を下回ることが現在の課題である。養護教諭と担任で連携して徹底した歯科指導を継続していく必要がある。

目標：体力の向上や健康増進について、目標を意識できている児童が約60%と低い。児童が目標や学習課題を意識し、主体的に体力向上や健康増進を目指すためにこの数値を90以上にする。

【成果】

- 体育科の取組
 - ・ALPHA「体力・運動能力（運動習慣）の向上について、自分なりの目標を立てていますか。」の肯定的な数値が令和6年度58.1%から令和7年度66%に向上した。このことから児童の体力向上への意識が高まった。
 - ・ALPHA「体育の授業は楽しいと思いますか。」の肯定的な数値が令和6年度93.1%から令和7年度94.1%に向上した。ほぼ横ばいではあるが、教師の授業力の向上が見られた。
 - ・また、体力調査で全国の平均を上回った割合が令和6年度41.7%から令和7年度58.3%に向上した。このことから体育科の取組により、児童の体力の向上が見られた。
- 食育の推進
 - ・残菜率について令和6年度5.5%から令和7年度4.7%に減少した。牛乳の残菜率も令和6年度7.7%から令和7年度6.2%に減少した。どちらの数値も低い数値であることや変化がみられることから児童の食への意識が変化したと考えられる。
- 保健の取組
 - ・虫歯の罹患率が令和6年度36.4%から令和7年度30%に減少したことから、歯の健康タイムなどの歯科指導の結果が表れている。
 - ・発育測定や授業に合わせて情報を掲示したことで休み時間に児童間での話し合いをする姿が見られたり、教員間での情報交換などにも役立ったりした。

【実態・課題】

- ・今年度から5年ぶりに校庭を使用することができる。
⇒児童が体力を向上していくことができるように用具や場を整えたり、取組を行ったりする。
- ・「運動ができるようになっていく」と感じる児童は約半数である。
- ・「できなかったことができるようになった」きっかけとして児童が主体的に学ぶための項目の数値が低い。
⇒体育学習における指導力の向上が課題である。
- ・全校の1/3の児童が給食目標を意識していない。
⇒ICT機器を活用して給食目標を意識できるようにする。
⇒栄養バランスよく食べる力を身に付ける必要がある。
- ・虫歯の罹患率が江戸川区の平均を上回っている
⇒食後の歯磨き指導やフッ化物洗口などにより虫歯の罹患率を減らし、児童の健康への意識を高めていくことが課題である。
⇒外部人材なども活用して教員も健康増進への意識を高めて、発信していく。

【取組】

- 体育科の取組
 - ・運動環境の整備、運動機会確保の工夫
 - ・体づくり運動の授業を通した教員の体育の授業力向上
- 食育の推進
 - ・ICT機器を活用した情報発信
 - ・食への意識向上
- 保健の取組
 - ・歯科指導の充実
 - ・健康増進を意識づける掲示物
 - ・外部人材の活用

【取組（詳細）】

- 体育科の取組
 - ・研究推進部では、校内研究授業の充実を図る。領域は体づくり運動系で、児童の体力向上を目指すと共に教員の体育科の授業改善を図る。
 - ・研修部では外部人材を活用し、出前授業を実施することで児童の体力向上の取組や授業改善に生かす。
 - ・環境部では、オープンスペースや体育館で運動ができる場を設定し、運動する機会を増やした。オープンスペースでは、行事（体力調査など）に合わせて場を作る。
 - ・「東っこチャレンジ」ではICT機器を活用して体力向上を視覚化し、目標を明確にして主体的に体力向上を目指すことができるようにする。
 - ・毎朝、始業前にラジオ体操を行い、交感神経を活発にして血流を良くすることで、元気に学校生活を始めることができるようにしている。
- 食育の推進
 - ・ICTを活用して給食の情報の発信を行い食育の推進を図る。給食メモや給食写真を紹介する「ランチ通信」を投稿し、食に関する興味・関心を高める。
 - ・食への興味・関心を高めるため、総合的な学習の時間に食育の授業を行ったり、授業の様子を全校に発信したりする。
 - ・食べる意欲や食品ロスへの意識を高めるために、食べ残しが少ないクラスを毎月「ペロン賞」として表彰する。
- 保健の取組
 - ・健康増進への意識づけとして、季節や発育測定に合わせた掲示をする。
 - ・発育測定を行う際に全学年で歯科指導を行い、健康への意識を高めていく。
 - ・毎日、給食後に「歯の健康タイム」を設定する。
 - ・ICTを活用して歯みがきの仕方やフッ化物洗口の仕方などの動画を作っておき、いつでも視聴できるようにして歯みがきに対しての意識を高めていく。

